

2 日目

第 1 学年 2 組 生活科学習指導案

平成28年 2月 4日 (木) 公開授業Ⅱ
 平成28年 2月 5日 (金) 公開授業Ⅰ
 会場 1階-②
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
 教諭 三星 雄大

1 単元名 ぼくもわたしもできたよ - えんじさんニコニコだいさくせん -

2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(8)(9)を受けて設定した。本単元の目標は次のとおりである。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

(9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

本単元では、青陵幼稚園年長児27名を附属新潟小学校に招待し、交流する。本単元を行うことは、幼稚園児にとっても1年生にとっても次のような価値がある。

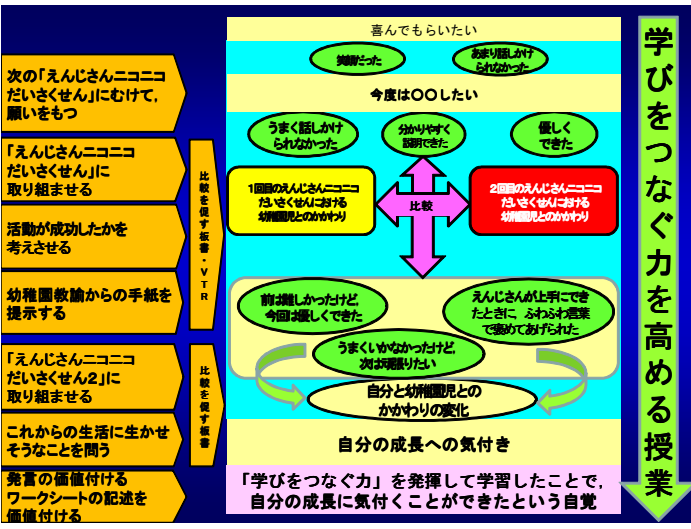
幼稚園児にとっての価値は、子どもの安心につながることである。青陵幼稚園は、特定の小学校との交流活動は行っていない。卒園後は、約20校の小学校へ入学していく。子どもは入学に際して、期待と不安を抱いているという。そのような子どもが1年生と交流することで、小学校には助けてくれる優しいお兄さん・お姉さんがいることを知る。また、小学校で行う活動や小学校にある施設を知ることができる。小学校で生活するイメージを入学前にもつことは、子どもの安心につながる。

1年生にとっての価値は、子どもが自分自身の成長に気付くことができることにある。子どもは入学してからの10ヶ月、上級生に支えてもらうことが多かった。そのような子どもが幼稚園児との交流を通して、「自分より幼い子どもに対して思いやりの心をもって優しく接すること」「相手の気持ちを考えて行動すること」の大切さに実感を持って気付く。また、「我慢する心」「次にうまくいくようにもっと頑張ろうと挑戦する気持ち」といった自分の成長にも気付くことができる。これらは、生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々と適切にかかわることができるようになり、自らよりよい生活を創り出していくことができるという生活上の自立につながる姿である。

3 本単元で目指す姿

自分の成長に気付き、自分の生活に結び付けて考える子ども。

具体的には、「私は、前はできなかつたけれど〇〇さんに優しくすることができるようになりました。来年入学してくる1年生にも優しくしてあげたいです」等と振り返る姿



- (1) 「中核的な学習内容」
自分の成長への気づき
- (2) 「学びをつなぐ力」
比較するすべを用いて、1回目と2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」における自分と幼稚園児とのかわりを比べ、自分の変化に気付く力
- (3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚
「学びをつなぐ力」を発揮して学習したことで、自分の成長に気付くことができたという自覚

4 指導の構想

子どもは、これまで2回青陵幼稚園年長児と交流してきた。今までの交流は、青陵幼稚園で行った。室内で迷路をつくったり折り紙やカプラ（積み木）を一緒にしたりして、「楽しかった」「もっとなかよくなりたいたい」と考えている。子どもは、今までのかかわり方に満足し、これからも一緒に遊びたいと考えている。しかし、自分の成長には気付いていない。

まず、青陵幼稚園年長児とグループになり、交流を青陵幼稚園で行う（「えんじさんニコニコだいさくせん」）。それは、2学期から行ってきたお店屋さんの活動である。子どもたちは、幼稚園児に「喜んでほしい」と願い、かかわる。活動後「まなぶっく」という活動の成果がとらえやすくなるワークシートに振り返らせておく。子どもは、1回目の活動における成果や課題をワークシートに記述する。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

「えんじさんニコニコだいさくせん」が成功したかを考えさせ、できるようになりたいことを問う。

活動を通して、できるようになりたいことを設定させるための働き掛けである。

まず、「えんじさんニコニコだいさくせん」が成功したかを問う。すると子どもは、理由と共に成功したかどうかを発表する。子どもは話合いにおいて、「あまり話しかけられなくて、笑顔ではなかったから成功ではないと思う」「園児さんが笑顔だったから成功したと思う」等と発表する。そして、1回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」は青陵幼稚園で行ったから今度は、附属小学校に呼びたいと願うようになる。

最後に、2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」を通して、できるようになりたいことを問い、ワークシートに記述させる。子どもは、「次は、優しく話しかけたい」等と、一人一人ができるようになりたいことを設定する。

働き掛け2（1日目）

「えんじさんニコニコだいさくせん」に取り組みせ、「まなぶっく」に振り返らせる。

幼稚園児と交流させ、幼稚園児を喜ばせたいという願いが達成できたかを考えさせるための働き掛けである。

1年生は、1回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」と同質の活動であるため、かかわりの比較が促される。幼稚園児は、同質の体験であるため、活動への見通しがもてる。したがって、初めて小学校で交流活動を行う幼稚園児の安心につながる。

1回目の活動と同じように、ガイド役とグループの子どもとを組ませて活動させる。子どもは、もっと喜んでもらいたいという願いをもってペアの幼稚園児とかわる。

その後、幼稚園児を喜ばせたいという願いで始まった活動が成功したかを「まなぶっく」に振り返らせる。

「まなぶっく」とは、次の特徴がある。

- ・1回ごとに喜ばせたいという願いが達成できたかを数値とともに振り返ることができる。
- ・数値は4段階になっている。数値とともに理由を記述する場所を設けておく。
- ・1回目と2回目の交流活動との比較が促される。
- ・喜ばせたいという願いが達成できたかを数値だけではなく、色でも表現できる。

子どもは、活動時のかかわりを想起し、活動が成功したかどうかについて振り返る。このとき子どもは、「グループの幼稚園児が喜んでくれた」等と、活動が成功したと考える。また、子どもによっては「うまく接することができなかった」等と、活動が成功しなかったと考える。

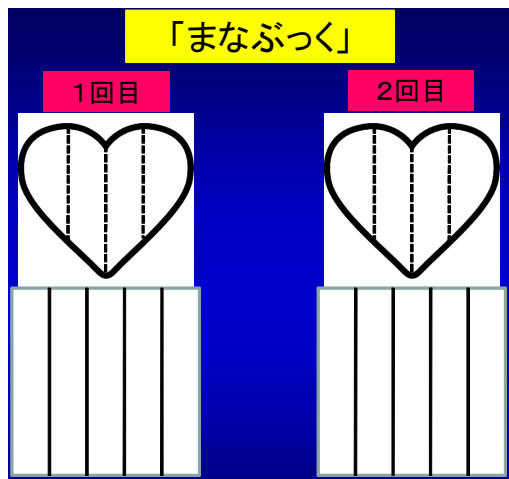
働き掛け3（2日目）

自分の変化に気付いている子どもの記述を読み聞かせ、同じ考えの人はいないかを問う。

1回目と2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」における自分と幼稚園児のかかわりを比べて考えさせるための働き掛けである。

2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」は、成功したかを問う。子どもは、「〇〇さんに優しく声をかけてあげられました。笑顔で楽しそうでした。だから、成功だと思います」等と発言する。

複数人に発表させた後、自分の変化に気付いている子どもの記述を読み聞かせる。そして、同じ考えの人はいないかを問う。子どもは、1回目と2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」における自分と幼稚園児とのかかわりを比べ、「優しく声を掛けることができるようになった」等の自分の変化に気付く。



働き掛け4（2日目）

自分と幼稚園児とのかかわりが見える写真や動画を提示する。

より多くの子どもに、自分の変化に気付かせるための働き掛けである。自分と幼稚園児とのかかわりが見える写真や動画を提示する。この写真や動画は、**できるようになりたいと願ったことが実現した場面（「対象」）**が見えるものである。子どもは、1回目と2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」における自分と幼稚園児とのかかわりを比べ、「優しく声をかけることができた」等自分の変化に気付く。

働き掛け5（2日目）

幼稚園教諭からの手紙を提示し、1回目の活動との変化を問い、ワークシートに振り返らせる。

自分の成長に気付かせるための働き掛けである。
成功かどうかを考えてきた子どもに、幼稚園教諭の手紙を提示する。手紙の内容は次の通りである。

1年2組の皆さん、昨日は小学校に呼んでくれてありがとうございました。青バラ組の子どもたちに、感想を聞いてみました。するとね、全員が楽しいって答えましたよ。きっと、1回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」からいろいろ考えたのでしょうね。

手紙を提示した後、1回目の活動との変化を問う。子どもは、1回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」の後に設定した自分の願いと2回目の「えんじさんニコニコだいさくせん」のときのかかわりを基に、自分の成長に気付く。

働き掛け6

「えんじさんニコニコだいさくせん2」に取り組みせ、ワークシートと「まなぶっく」に振り返らせる。

「えんじさんニコニコだいさくせん」で学んだかかわりを生かして交流させるための働き掛けである。

この活動では、学校の施設を案内させたりどのような勉強があるのかを一緒に体験させたりする。子どもは、自分のペアの幼稚園児が喜んでくれるような学校の施設はどこか、どのような勉強を教えれば喜んでくれるのかを考えながら交流する。

活動後、「まなぶっく」に振り返らせる。子どもは、活動時のかかわりを想起し、「えんじさんニコニコだいさくせん」で学んだかかわりの大切さを実感する。

働き掛け7

これからの生活で大切にしたいことを問い、これまでの活動を振り返らせる。

学習を通して学んだことをこれからの生活に結び付けて考えさせるための働き掛けである。

子どもは幼稚園児とのかかわりを通して、「自分より小さい子どもに対して思いやりの心をもって優しく接すること」「相手の気持ちを考えて行動すること」「我慢して活動することも必要なことがあること」「粘り強く取り組もうとすること」の大切さを学んできた。そのような子どもに、学習を通してこれからの生活で大切にしたいことを問い、振り返らせる。子どもは活動を通して実感した価値と、今の自分とこれからの生活を結び付けて考え、**自分の成長に気づき、これからの生活に結び付けて考える子ども**になる。

5 指導計画 全16時間（48Q）

別紙「指導計画」参照

6 本時の構想<2日目> 14/16時間（45分授業）

(1) ねらい

「えんじさんニコニコだいさくせん」が成功したかどうかを振り返り、自分の考えと友達の考えとを比べることを通して、自分の成長に気付くことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
1 「えんじさんニコニコだいさくせん」が成功したかを振り返る。	○説明「昨日は、青陵幼稚園の年長さんの青

- ・どこに行きたいのかを優しく聞いてあげられた。そうしたら、輪投げやさんに行きたいと行っていたので連れて行ってあげた。
- ・ゆっくりと分かりやすくルールを説明することができた。そうしたら、笑顔になって楽しそうに遊んでくれた。
- ・そう言えば私も、上手にできたときに、ふわふわ言葉で褒めてあげられた。嬉しそうにしていた。私も嬉しくなった。

2 自分と幼稚園児とのかかわりが見える写真や動画を提示して、何をしてたのか、どのようなことを考えていたのかを発表し合う。

☆つなぐ力を発揮している子どもの例

- ・この前も優しく話しかけようとしたけどうまくいきませんでした。でも、昨日は優しく声を掛けたらちゃんと答えてくれてうまくいきました。
- ・この前は□□さん（幼稚園児）が楽しくなさそうだったのだけど、今回は楽しそうでした。たぶん、やりたいことをさせてあげたからだと思います。

3 幼稚園の先生からの手紙の内容を聞き、1回目の活動との変化をワークシートに記述する。

- ・相手のことを考えることをがんばりました。考えられなかったです。でも、昨日は□□さん（幼稚園児）に楽しんでほしかったので、やりたいことは何かを優しく聞きました。前はできなかったことができて、すごく嬉しかったです。
- ・優しくすることをがんばりました。私は、今までも優しく話しかけることができていました。昨日は、もっと優しくするためにゆっくり話したり、自分からこれがいいかなとか話したりしてみました。もっと◆◆さんのことを考えられるようになりました。
- ・ぼくは、優しくすることをめあてにがんばりました。でも、うまく話しかけられなかったし、満足はしていません。でも、〇〇さんのことを喜ばせたい気持ちはあるから、今度は楽しく話ができるようにしていきたいです。

バラ組の皆さんが来てくれましたね」

○発問「二回目のえんじさんニコニコだいさくせんが成功したかを振り返りましょう」【働き掛け3-①】

○補助発問「なぜそのように思ったのですか」

○補助発問「グループの園児さんの様子ははどうでしたか」

※自分の変化に気付いている子どもの記述を読み聞かせる。

○発問「同じように考えた人はいますか」【働き掛け3-②】

○指示「昨日の活動をビデオに撮っていました。今から見せますね」

【働き掛け4】

○発問「△△さんは、何をしているのですか」

○発問「今、△△さんが言ったことと同じように考えている人はいますか」

○発問「□□さんのまなぶっくを見ると、前のとくと顔が違いますね。どうしてそのようにしたのですか」

※「まなぶっく」に変容が見られる子どもを指名し発言させる。

○説明「実は、幼稚園の宮島先生から手紙が届いているのです。今から読みますね」【働き掛け5-①】

今日は、ありがとうございました。前の日から青ばらの子どもたちは、小学校に行くことを楽しみにしていました。小学校はようちえんよりずっと広くてドキドキしていたけど、すぐに1年生のみなさんがげんかんまでむかえにきてくれてあんしんしました。おしたくのおせわまで、ていねいにしてくれてありがとうございました。おみせやさんもとってもたのしかったです。ようちえんのみんながたのしめるようにいろいろとかがえてくださったのがよくわかりました。ありがとうございました。

○発問「1回目の活動と2回目の活動で変わったことありましたか。どうして変わったのでしょうか理由も書きましょう」【働き掛け5-②】

(3) 評価

自分の成長に気付いているかを発言やワークシートの記述から判断する。